

キリスト教思想における社会・政治・民族（1）

1	キリスト教思想と政治（前期）	
1	近代世界とキリスト教	5/18
2	民主主義とキリスト教	
	キリスト教と政治	5/25
	近代民主主義の形成過程	6/1
	民主主義の両義性 R. ニーバー	6/15
3	ティリッヒ『組織神学』の政治論	
	『組織神学』の構成と政治論	6/22
	生と歴史の両義性	6/29
	革命（変革）か反動（伝統）か	7/6
	まとめと展望	7/13
Exkurs	ティリッヒと平和の神学	6/8

1 キリスト教思想と政治2 民主主義とキリスト教2 - 1 : キリスト教と政治

< マタイによる福音書 >

22:15 それから、ファリサイ派の人々は出て行って、どのようにしてイエスの言葉じりをとらえて、罠にかけようかと相談した。16 そして、その弟子たちをヘロデ派の人々と一緒にイエスのところに遣わして尋ねさせた。「先生、わたしたちは、あなたが真実な方で、真理に基づいて神の道を教え、だれをもはばからない方であることを知っています。人々を分け隔てなさらないからです。17 ところで、どうお思いでしょうか、お教えください。皇帝に税金を納めるのは、律法に適っているのでしょうか、適っていないのでしょうか。」

22:18 イエスは彼らの悪意に気づいて言われた。「偽善者たち、なぜ、わたしを試そうとするのか。19 税金に納めるお金を見せなさい。」彼らがデナリオン銀貨を持って来ると、20 イエスは、「これは、だれの肖像と銘か」と言われた。21 彼らは、「皇帝のものです」と言った。すると、イエスは言われた。「では、皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。」22 彼らはこれを聞いて驚き、イエスをその場に残して立ち去った。

< ローマの信徒への手紙 >

13:1 人は皆、上に立つ権威に従うべきです。神に由来しない権威はなく、今ある権威はすべて神によって立てられたものだからです。2 従って、権威に逆らう者は、神の定めに従うことになり、背く者は自分の身に裁きを招くでしょう。3 実際、支配者は、善を行う者にはそうではないが、悪を行う者には恐ろしい存在です。あなたは権威者を恐れな

とを願っている。それなら、善を行いなさい。そうすれば、権威者からほめられるでしょう。4 権威者は、あなたに善を行わせるために、神に仕える者なのです。しかし、もし悪を行えば、恐れなければなりません。権威者はいたずらに剣を帯びているのではなく、神に仕える者として、悪を行う者に怒りをもって報いるのです。5 だから、怒りを逃れるためだけでなく、良心のためにも、これに従うべきです。6 あなたがたが貢を納めているのもそのためです。権威者は神に仕える者であり、そのことに励んでいるのです。7 すべての人々に対して自分の義務を果たしなさい。貢を納めるべき人には貢を納め、税を納めるべき人には税を納め、恐るべき人は恐れ、敬うべき人は敬いなさい。8 互いに愛し合うことのほかに、だれに対しても借りがあってはなりません。人を愛する者は、律法を全うしているのです。9 「姦淫するな、殺すな、盗むな、むさぼるな」、そのほかどんな掟があっても、「隣人を自分のように愛しなさい」という言葉に要約されます。10 愛は隣人に悪を行いません。だから、愛は律法を全うするものです。11 更に、あなたがたは今がどんな時であるかを知っています。あなたがたが眠りから覚めるべき時が既に来ています。今や、わたしたちが信仰に入ったころよりも、救いは近づいているからです。12 夜は更け、日は近づいた。だから、闇の行いを脱ぎ捨てて光の武具を身に着けましょう。13 日中を歩むように、品位をもって歩もうではありませんか。酒宴と酩酊、淫乱と好色、争いとねたみを捨て、14 主イエス・キリストを身にまといなさい。欲望を満足させようとして、肉に心を用いてはなりません。

<ヨハネ黙示録>

「6:5 小羊が第三の封印を開いたとき、第三の生き物が「出て来い」と言うのを、わたしは聞いた。そして見ていると、見よ、黒い馬が現れ、乗っている者は、手に秤を持っていた。6 わたしは、四つの生き物の間から出る声のようなものが、こう言うのを聞いた。「小麦は一コイニクスで一デナリオン。大麦は三コイニクスで一デナリオン。オリーブ油とぶどう酒とを損なうな。」」
「13:1 わたしはまた、一匹の獣が海の中から上って来るのを見た。これには十本の角と七つの頭があった。それらの角には十の王冠があり、頭には神を冒瀆するさまざまな名が記されていた。」
「13:15 第二の獣は、獣の像に息を吹き込むことを許されて、獣の像がものを言うことさえできるようにし、獣の像を拝もうとしない者があれば、皆殺しにさせた。16 また、小さな者にも大きな者にも、富める者にも貧しい者にも、自由な身分の者にも奴隷にも、すべての者にその右手か額に刻印を押させた。17 そこで、この刻印のある者でなければ、物を買うことも、売ることもできないようになった。この刻印とはあの獣の名、あるいはその名の数字である。18 ここに知恵が必要である。賢い人は、獣の数字にどのような意味があるかを考えるがよい。数字は人間を指している。そして、数字は六百六十六である。」
「18:2 天使は力強い声で叫んだ。「倒れた。大バビロンが倒れた。そして、そこは悪霊どもの住みか、あらゆる汚れた霊の巢窟、あらゆる汚れた鳥の巢窟、あらゆる汚れた忌まわしい獣の巢窟となった。3 すべての国の民は、怒りを招く彼女のみだらな行いのぶどう酒を飲み、地上の王たちは、彼女のみだらなことをし、地上の商人たちは、彼女の豪勢なぜいいたくによって富を築いたからである。」」

1. 大木英夫「デモクラシーとキリスト教」

キリスト教はあらゆる政治体制との結合できる、しかしデモクラシーへの近さ「バルトは『義認と法』(一九三八年)において、「新約聖書の訓戒の最も内的な、最も中心的な形に眼を注ぐときにこそ、私は『われわれは新約聖書の線を民主主義的国家概念の意味において延長する場合にこそ、正しい解釈に基づくのだ』と言うであろう」と言明した。戦後『キリスト者共同体と市民共同体』(一九四六年)において、前者よりもずっと抑制された形をとっているが、「福音から出発するキリスト教的政治の方向と線とは、普通一般に、民主的国家と名づけるものに著しく似通った傾向にある」ことを承認した。バルトが政治的にデモクラシーを肯定していることは以上の引用から十分推測できると思うが、彼が政治問題を考えるさいにとる「神の国」との類似の論理は、正しい国家が君主制・貴族性の形をもとりうるし、また独裁制をもとりうることを容認せざるをえないという結果をもたらし、キリスト教とデモクラシーの結びつきを、神学的な立場から断定することの困難をあらわしている。歴史的に見ても、キリスト教徒とデモクラシーとの結びつきを立証することは決して単純にはできない」(『歴史神学と社会倫理』ヨルダン社、1979年 368頁)

2. 歴史的事実としての多様な関係性と理念における親近性

イエスの宗教運動

徹底的な平等主義

John Domic Crossan, *Jesus. A Revolutionary Biography*, HaperSanFrancisco, 1994.

Open commensality is the symbol and embodiment of radical egalitarianism, of an absolute equality of people that denies the validity of any discrimination between them and negates the necessity of any hierarchy among them. (71)

現実の妥協か現実の変革か

3. イデオロギーとユートピア、第三の道

信仰的現実主義(Glaubiger Realismus)

Paul Tillich, *Glaubiger Realismus*(1927), in: MW.4

Wirklichkeit ist, was im Wirkungszusammhang steht. Und das wahrhaft Wirkliche ist das, was dem Wirkungszusammenhang tragt.(184)

das Wort Idee, das fur Plato Ausdruck hochster Seinsmachtigkeit war, die Ohnmacht der Dinge

Mystischer Realismus, Technische Realitat, dieser okonomisch-politische Realismus der historische Realismus

1.die Oberflachengebundenheit, 2. der unglaubige Realismus, 3. der Idealismus, 4.der glaubige Realismus

In der Politik: 1. die Zufallspolitik, das Gebundensein an Mächte des bloßen Daseins, 2. die ungläubige Realpolitik: der skeptische, aber tiefe Politiker, 3.die utopische Politik: der Schwung, der ein Unbedingtes verwirklichen will, 4. die hinweisende Politik. (190)

3. 植村正久

倫理教ではないが、国家への感化

宗教と倫理との区別そして関係性

「キリスト教は神と人との間を契合する敬神の道なり。決して倫理教をもってこれを目くべからざるなり。しかれどもその世上人事に切なるは、彼の山上の垂訓に就きてその大体を見るべし。」(「キリスト教の日本に対する使命」71頁、明治26年)

4. 世俗(究極以前の事柄)の意味

・終末論：武藤一雄「終末論の諸問題」(『神学と宗教哲学との間』創文社 1961年)

「終末論的な歴史観と歴史的・社会的実践性」

「終末論的な歴史観は、一切の人間主義的な内在的歴史観の否定であり。超克であるという意味をもつであろう。それは、例えば、唯物史観に立脚する自由の王国のユートピア、観念論的な神の国、此岸化された千年王国説と相容れないものである。そこでは、歴史の原型は、進歩でも発展でもなく、危機である」(341)、「キリストとの同時性に制約された信仰の倫理が終末論的歴史観と媒介されるところに、ティリッヒのいわゆる信仰的現実主義、ないしはその現代における適用として、カイロスの倫理としての宗教的社會主義も成立するといえるであろう。」(345)

・心情倫理(Gesinnungsethik)と責任倫理(Verantwortungsethik)

ウェーバー『職業としての政治』岩波文庫

心情の純粋性か、結果責任か。二つの倫理の相互補完性

「わたしはあなたがたを遣わす。それは、狼の群れに羊を送り込むようなものだ。だから、蛇のように賢く、鳩のように素直になりなさい。」(マタイ10:16)

5. 権威の問題

国家と教会

パウロの国家論：上に立つ権威の承認とその根拠

市民的秩序の尊重とその相対化

エウセビオスの『教会史』とアウグスティヌス(De Civitate Dei)との対比

石原謙『キリスト教の源流』岩波書店、1972年。

R・A・マーカス『アウグスティヌス神学における歴史と社会』教文館。